



佛ぶつ
前ぜん
勤ごんぎ
行よう
次し
第だい

白水文庫 9

四国八十八ヶ所靈場第二十二番札所平等寺
平等講事務局発行

凡例 はんれい

- 一、青文字は「経頭」が一人でお唱えする「頭」であることを表します。
- 二、項目名以外の黒文字は、皆で唱和する「助」であることを表します。
- 一、灰色の文字は住職が付け足した解説文であることを表します。
- 一、複数名で読経する場合、一名が「経頭」となり、他は「助法」となります。
- 一、複数回唱える項目（「三帰」など）は、一回目の青文字のみ「頭」となります。
- 一、お一人で読経する場合、「頭」「助」共にお唱えください。

仏前勤行次第による供養 ぶつぜんこんぎょうしだい

供養とは、もてなすことです。来客があればお茶やお菓子を出しもてなします。それと同じように、ご先祖さまや亡くなられた方に心を向け、懇ろにもてなすことを先祖供養、あるいは過去精霊の供養と言います。供物を用意できなくても大丈夫。大切な方のことを思い、この『佛前勤行次第』をお唱えすれば、そのお心が何よりの供養となります。

佛前勤行次第

先

禮拜

仏前に合掌し普礼の真言を唱えながら礼拝を三遍

おん
 ざん
 ざ
 らば
 た
 た
 ぎや
 た
 み

Skt. om sarvatathāgatapādāvandanaṃ karomi/
 私はあらゆる御仏の御足に礼拝します。

次 開經偈

一遍

無上甚深微妙法

百千萬劫難遭遇

我今見聞得受持

願解如來眞實義

最上の教えにはなかなか出会うことができないが、私は今、その教えを見聞きする機会を得ています。仏が意図したとおりに、教えを理解できることを願っています。

次 懺悔

一遍

実叉難陀訳『大方広仏華嚴經』「普賢行願品」偈

我昔所造諸惡業

皆由無始貪瞋癡

從身語意之所生

一切我今皆懺悔

私は「貪りと怒りと愚かさ」が原因で、「身体と言葉と意識」の働きの中で、様々な悪い行いとその結果を生み出してきました。今、その全てを懺悔します。

次 三歸

三遍

弟子某甲

盡未來際

歸依佛

歸依法

歸依僧

Skt. buddham saranam gacchami/ dharmam saranam gacchami/ sangham saranam gacchami//

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、仏を信じ、仏の教えを信じ、仏の教えを實踐する出家者の集まり（サンガ）を信じて誓います。

次 三竟

三遍

弟子某甲

盡未來際

歸依佛竟

歸依法竟

歸依僧竟

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、仏を信じ、仏の教えを信じ、仏の教えを實踐する出家者の集まり（サンガ）を信じています。

次十善戒

三遍

実叉難陀訳『大方広仏華嚴經』「十地品」

弟子某甲

盡未來際

不殺生

不偷盜

不邪淫

不妄語

不綺語

不惡口

不兩舌

不慳貪

不瞋恚

不邪見

私の弟子である私は、未来が終わる時まで、

【身体】生きているあらゆる存在を傷つけず、与えられていない物を自分の物とせず、夫婦関係を壊すような邪な男女関係を持ちません。

【言葉】意図的に嘘をつかず、綺麗ごとのような余計なことを言わず、悪口を言わず、人と人の絆を裂くような二枚舌を使いません。

【意識】出し惜しみせず必要以上に欲しがらず、怒りの感情に包み込まれること無く、因果応報の道理を信じない考えを持つことはない、誓います。

次發菩提心

三遍

善無畏 訳『大毘盧遮那經 廣大儀軌』

うん ぼう ぢ しつ た ぶ だ は だ や み

Skt. om bodhicitam utpādayāmi/

オーム、私は菩提心(仏となることを追い求める心)を生起せしめます。

次三昧耶戒

三遍

金剛智 訳『金剛頂瑜伽中略出念誦經』

うん さん ま や さとばん

Skt. om samayas tvam/

オーム、あなた(金剛薩埵)この言葉を唱えている私自身(三昧耶)あらゆるものの苦を抜き、楽を与えるという誓いを体現する者)です。

次 讀 經

『般若心經』

亦 無 耳 不 是 異 蘊 觀 佛 次
無 意 鼻 增 舍 色 皆 自 說 讀
老 識 舌 不 利 色 空 在 摩 經
死 界 身 減 子 即 度 菩 訶
盡 無 意 是 是 是 一 薩 般
無 無 無 故 空 諸 空 切 行 若
苦 明 色 空 法 空 苦 深 波
集 亦 聲 中 空 卽 卽 卽 般 羅
滅 無 香 無 相 是 舍 若 蜜
道 無 味 色 不 色 利 波 多
無 明 觸 無 生 受 子 羅 心
智 盡 法 受 不 想 色 蜜 經
亦 乃 無 眼 行 識 亦 復 如
無 至 無 界 乃 至 眼 淨

般 <small>はん</small>	菩 <small>ぼ</small>	揭 <small>ぎゃ</small>	多 <small>た</small>	咒 <small>しゅ</small>	多 <small>た</small>	得 <small>とく</small>	想 <small>そう</small>	罣 <small>け</small>	所 <small>しょ</small>
若 <small>にゃ</small>	提 <small>ち</small>	諦 <small>てい</small>	咒 <small>しゅ</small>	能 <small>のう</small>	是 <small>ぜ</small>	阿 <small>あ</small>	究 <small>く</small>	礙 <small>げ</small>	得 <small>とつ</small>
心 <small>しん</small>	薩 <small>そ</small>		卽 <small>そく</small>	除 <small>じよ</small>	大 <small>だい</small>	耨 <small>のく</small>	竟 <small>きやう</small>	無 <small>む</small>	故 <small>こ</small>
經 <small>ぎやう</small>	婆 <small>わ</small>	揭 <small>ぎゃ</small>	說 <small>せつ</small>	一 <small>いつ</small>	神 <small>じん</small>	多 <small>た</small>	涅 <small>ね</small>	罣 <small>け</small>	菩 <small>ぼ</small>
	訶 <small>か</small>	諦 <small>てい</small>	咒 <small>しゅ</small>	切 <small>さい</small>	咒 <small>しゅ</small>	羅 <small>ら</small>	槃 <small>はん</small>	礙 <small>げ</small>	提 <small>だい</small>
			曰 <small>わつ</small>	苦 <small>く</small>	是 <small>ぜ</small>	三 <small>さん</small>	三 <small>さん</small>	故 <small>こ</small>	薩 <small>さつ</small>
	波 <small>は</small>			眞 <small>しん</small>	大 <small>だい</small>	藐 <small>みやく</small>	世 <small>ぜ</small>	無 <small>む</small>	埵 <small>た</small>
	羅 <small>ら</small>			實 <small>じつ</small>	明 <small>みやう</small>	三 <small>さん</small>	諸 <small>しよ</small>	有 <small>う</small>	依 <small>え</small>
	揭 <small>ぎゃ</small>			不 <small>ふ</small>	咒 <small>しゅ</small>	菩 <small>ぼ</small>	佛 <small>ぶつ</small>	恐 <small>く</small>	般 <small>はん</small>
	諦 <small>てい</small>			虛 <small>こ</small>	是 <small>ぜ</small>	提 <small>だい</small>	依 <small>え</small>	怖 <small>ふ</small>	若 <small>にゃ</small>
				故 <small>こ</small>	無 <small>む</small>	故 <small>こ</small>	般 <small>はん</small>	遠 <small>おん</small>	波 <small>は</small>
	波 <small>は</small>			說 <small>せつ</small>	上 <small>じやう</small>	知 <small>ち</small>	若 <small>にゃ</small>	離 <small>り</small>	羅 <small>ら</small>
	羅 <small>ら</small>			般 <small>はん</small>	咒 <small>しゅ</small>	般 <small>はん</small>	波 <small>は</small>	一 <small>いつ</small>	蜜 <small>み</small>
	僧 <small>そう</small>			若 <small>にゃ</small>	是 <small>ぜ</small>	若 <small>にゃ</small>	羅 <small>ら</small>	切 <small>さい</small>	多 <small>た</small>
	揭 <small>ぎゃ</small>			波 <small>は</small>	無 <small>む</small>	波 <small>は</small>	蜜 <small>み</small>	顛 <small>てん</small>	故 <small>こ</small>
	諦 <small>てい</small>			羅 <small>ら</small>	等 <small>とう</small>	羅 <small>ら</small>	多 <small>た</small>	倒 <small>とう</small>	心 <small>しん</small>
				蜜 <small>み</small>	等 <small>とう</small>	蜜 <small>み</small>	故 <small>こ</small>	夢 <small>む</small>	無 <small>む</small>

次十三佛眞言

七遍或は三遍

不動明王	のうまくさまんだ ばざらだん せんだ まかるしやだ そはたや うん たらた かんまん	初七日
釋迦如來	のうまくさまんだ ぼだなん ばく	二七日
文殊菩薩	あらはしや のう	三七日
普賢菩薩	さんまや さとばん	四七日
地藏菩薩	かかかび さんまえい そわか	五七日
彌勒菩薩	まいたれいや そわか	六七日
藥師如來	ころころ せんだり まとうぎ そわか	七七日
觀自在菩薩	あろりきや そわか	百ヶ日
勢至菩薩	さんざんさく そわか	一周忌
阿彌陀如來	あみりた ていぜい から うん	三回忌
阿閼如來	あきしゆびや うん	七回忌
大日如來	あびらうんけん ばざらだと ばん	十三回忌

虚空藏菩薩 こくうざうぼさつ	のうぼう ありきや まりぼり そわか	卅三回忌
-------------------	-----------------------------	------

又諸眞言

またはしよしんごん
七遍ななへんあるい或は三遍さんべん その場の本尊ほんぞんさまの眞言等しんごんなどを唱えるとな

毘沙門天 ひしゃもんてん	おん べいしらまんだや そわか	
不空絹索觀音 ふくうけんじやくかんのん	おん じゃやに そろそろ そわか	
准胝觀音 じゆんでいかんのん	おん しゃれい それい そんでい そわか	
馬頭觀音 ばとうかんのん	おん ありみとど はんば うんぱった そわか	
如意輪觀音 にょいりんかんのん	おん はんどめい しんだまに じんばらうん	
千手觀音 せんじゆかんのん	おん ばざら だらま きりく	
十一面觀音 じゆいちめんかんのん	おん まかきやろに きや そわか(心呪)	
五祕密尊 ごひみつそん	おん じゃく うん ばん こく そらたさとばん	百回忌
愛染明王 あいぜんみょうおう	おん ざらさとば じゃく うん ばん こく	二五回忌 五〇回忌
般若菩薩 はんにやぼさつ	おん ぢしりしゆろだ びじゃえい そわか	二三回忌

次 光明眞言

七遍或は三遍
『不空羅索毘盧遮那佛大灌頂光眞言』

おん あ ぼ さや べい ろ しゃ のう

उं म म प र्णि र व

マ カ フ ヨ フ マ ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

skt. om amoghavairocana mahāmadhāraṇīpadmajāvala pravartaya hūm/

オーン、遍照大日の大いなる印に住するものよ、摩尼宝珠（物質）と蓮華（心）と光明（命そのもの）との徳があるものよ、私の身体を無限なる遍照大日へと転ぜしめよ。フーン

次 大師御寶号

七遍或は三遍

南無大師遍照金剛

次 廻向文

『法華経』「化城喻品」偈

願が以に此し功く徳どく

普ふ及じゅう於お一いつ切さい

我が等とう與よ衆しゅ生じよう

皆かい共ぐ成じよう佛ぶつ道どう

願ねがわくばこの功く徳どくをもつて、普あまく一いっ切さいに及およびし、我われらと衆しゅ生じようと皆みな共ともに仏ぶつ道どうを成じようぜん。

※廻え向こう文もん、「皆かい共ぐ」まで読よみ進すすめば念ねん誦じゆを摺ずり、読よ経きやうの功く徳どくによつて、みんみななそろつて仏ほとけの道みちに

進すすむことを願ねがひ、頭あたまを下さげてお祈いのりします。

次 禮 拜

普ふ禮らいの真ま言ごん・礼らい拜はい 三さん遍べん 衣え体たいを整ととのえ、胸むねの前まえで合あ掌しょうし

おん さ らば た た ぎや た
はん な ま んな のう きや ろ
ん な のう きや ろ
み

skt. om sarvatathāgatapādavadānam karomi/

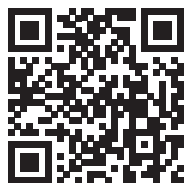
オーム、私わたしはあらゆる御み仏ほとけの御み足あしに礼らい拜はいします。

ぶつぜん こんぎようし だいのわんぬ 佛前勤行次第畢

オンラインで祈る宗教

平等寺は本尊葉師如来さまと本堂の様子を24時間ライブ配信しています。お参りしたい時、いつでもどこからでもお気軽にご参拝ください。宗旨宗派は問いません。大切な方のご供養やご祈祷(病氣平癒・癌封じ・足腰健全・厄滅開運など)、御札御守などは専用サイト「平等寺オンライン」からお申し込めます。毎日の朝夕の勤行や日曜の定例護摩にてご祈願させていただきます。

合掌



ライブ配信
byodoji.online/@live



平等寺オンライン
byodoji.online

ぶつぜん こんぎようし だいの 佛前勤行次第 白水文庫9

令和三年十月十五日 初版第一刷

令和五年一月廿二日 改訂二版第一刷

編集 四国八十八ヶ所霊場 第二十二番札所平等寺 住職 谷口真梁

発行所 平等講事務局

徳島県阿南市新野町秋山一七七番地

〇八八四一三六一三五二二

佛前勤行次第
白水文庫 9

